

天神町銀座商店街

(天神町銀座商店街振興組合)

山口県防府市

ここに注目！ 若手店主と地元高校との連携や「幸せます」をテーマとした特色あるイベントの開発により、商店街の活性化を実現する。



ポイント

商店街の愛称の『幸せます通り』から、防府天満宮で結婚式を挙げた新郎・新婦を商店街全体で祝福するなど、市民や来街者への「おもてなし」を実践中である。若手店主と高校生の共同企画による販売実習や、空き店舗を活用した「チャレンジショップ」「公共サービス施設」「子育て・福祉・介護施設」を展開している。

また、年間を通じたイベントや地元の伝統を活かした取組などで、地域に開かれ、親しまれる「コンパクトな商店街」を目指している。

【商店街概要及び取組の背景】

商店街を取り巻く厳しい環境の中で

本商店街は、日本三天神の防府天満宮の門前町として栄えてきた地元密着型商店街である。また、市内唯一のアーケードのある商店街として、1年を通して様々なイベントのメイン会場としての役割も担っている。

しかし、各地の中心市街地商店街と同様に、来街者の減少に加え、経営者の高齢化、後継者不足など、多くの課題を抱え、個店の経営や街なかイベントの運営が年々困難な状況となっている。

【取組の概要・効果】

Plan・Do

地元高校生との連携と若手の参画

その解決策のひとつとして、商店街を活用した高校生による販売実習の取組を開始する。生徒が授業の一環として商店街活動に参加することにより、学校や保護者、地域住民及び商業者との垣根が払拭され、年々高校生のサークル活動やイベント等に対する理解が増し、商店街の組合員からの協力も得られるようになった。

現在では、この取組を更に進化、発展した形として、高校生と地元若手店主が共同企画して販売する「ホ



商店街の愛称「幸せます通り」

ットショップ」や高校の文化祭を商店街で開催する「天神まちかどフェスタ」などを展開し、多くの市民の方からも高い評価を受けている。

次に、街なかイベントを継続する解決策としては、元気のある若手店主、高校生や市民ボランティアなどからの企画、支援を受けることである。その企画から、防府伝統の奇祭「笑い講」を参考に「お笑い体操」「お笑い三笑」「お笑い選手権」のお笑いイベント3部作が誕生し、参加者に体験してもらう取組を展開している。

【効果の評価と改善策の実施等】

Check・Action

商店街と福祉・介護サービスの連携へ

こうした取組により、賑わいの創出や活性化には繋がったが、空き店舗の改善には繋がっていない。そこで、本商店街は、更なる商店街のコミュニティ機能の強化を図るため、「高齢者（商店街で働く店主も含め）」にやさしい商店街づくりを目指して、以下の事業を実施している。

まず、商店街内の空き店舗に「小規模多機能型居宅介護・有料老人ホーム」、「子育てサロン」、「地域包括支援センター」など福祉・介護サービス施設の誘致を図った。今後は商店街と福祉・介護サービス機能が連携して新たな事業展開をできないか模索中である。

〔実施体制〕

さらなる事業推進に向け

各種イベントの実施体制としては、防府天満宮の梅鉢の紋のように地元企業・教育機関・市・まちづくり防府・若手商店主の5者が相互に結束することにより、多くの来街者をおもてなしすることを可能としている。

また、理事長を中心とする商店街組織のほかに、各商店街の若手商店主で結成された「和勝会(わかちあい)」が、新たな商店街活性化事業の提案を行っている。



※実施体制イメージ図

基本データ

所在地：山口県防府市天神

会員数：35名

店舗数：35店舗

関連URL：<http://www.h-c.or.jp/ginza/>



アーケードで開催中のフリーマーケット

キーパーソン



天神町銀座商店街振興組合
理事長 坂本 恵次

商店街活性化のための連携体制と若者の力

本商店街は防府天満宮の門前町として古くから栄えてきましたが、大型店舗の相次ぐ出店等もあり、来街者の減少や後継者不足、空き店舗の増加という問題を抱えています。加えて商店街店主の高齢化で各種イベントの運営も困難になってきたため、商店街を活性化させるためには、それを補う連携体制と若者の力が必要と考えました。そこで、地元企業・教育機関・市・まちづくり防府・若手商店主の5者が相互に結束して、防府のまちづくりや街なかイベントを応援するという体制を築くことに力を入れました。

また、将来を担う市内の商業高校生を育成し、商店街と高校生がともに進化し成長するという考えから、高

校生の販売実習や商品の開発を積極的に受け入れ、各商店街やそこで取り扱う商品を知ってもらう取組を行いました。

「高齢者にやさしい商店街づくり」

防府市は高齢化率26%となり、今後ますます高齢化は進んでいきます。この現状をふまえ、本商店街は、「高齢者にやさしい商店街づくり」を進めています。

現在ある福祉・介護施設やほうふ昭和館を活かし、より多くの高齢者が商店街を利用できるようバリアフリー化やコミュニティの場の提供などに取り組みたいです。

また、高校生との交流をさらに深め、地域の未来を担う若者を応援する取組についても積極的に支援していきたいと思います。商店街が商売の場としてだけでなく、誰もが安心安全に利用できる場として、又、情報発信の場や子どもから高齢者まで幅広い世代が交流できる場としても役割を担い、今後は商店街の垣根を越え、元気のある商店や人材が集積する「コンパクトな商店街」を目指していきたいと思います。